

# 精神障害者にとっての人的資源を拡充するための研究

——動物飼育経験者の精神障害者に対する意識調査——

御 前 由 美 子\*

## A Study on Acceptance of People with Mental Disability

——Attitudes of People with Experience in Rearing Animals——

Yumiko Misaki

**Abstract :** Due to prevalent prejudice and misunderstandings about people with mental disability, the person with such disadvantage often finds it difficult to be a part of the community.

This paper aimed at looking for people who would be more likely to accept those with mental disability. There are several studies that indicate that people with experience in rearing animals generally show more capability to establish relationships with others defying their own preconceived values or ideas than ones with no such experience. Therefore it is suggested that they are a more likely segment of society to accept people with mental disability.

A questionnaire survey was conducted and data was gathered from 331 subjects who have experience in rearing animals, and their attitude toward mentally disadvantaged people was assessed. It was found that experience in rearing animals, particularly dogs and cats, is conducive to acceptance of people with mental disability.

**Key words :** 精神障害者 people with mental disability 偏見 prejudice 人的資源 human resources  
動物飼育経験者 people with experience in rearing animals

### I はじめに

精神障害者が地域に住み、住民と関わり、地域で働くなどの普通の生活をするには困難を伴うことが多く、その原因が精神障害者に対する偏見や誤解によるところが大きい。偏見を是正するためには、広く考えて、社会構造の变革に力をいれるもの（たとえば、立法化、住居改善、行政命令）、及び人格構造の変容に力を

いれるもの（文化交流教育、児童のしつけ、勧告）の2つの類型がある<sup>1)</sup>。後者において、精神障害者に対する偏見の是正には、正しい知識の普及・啓発、精神障害者との接触体験が重要だということがこれまでに行われた調査によって報告されてきた。

その中で、精神障害者との日常的な接触を持つ一般住民の精神障害者に対する意識を調査<sup>2,3)</sup>したものがあるが、これは、1987年に大島らが精神病院の周辺に暮らしている地域住民500人を対象に行っている（以下「三枚橋病院周辺地区調査」とする）。

\*関西福祉科学大学大学院社会福祉学研究科  
臨床福祉学専攻 学生

この病院は閉鎖的な精神病院が多い中、全病床が開放病棟で、患者は町中に出かけるなどの行動が自由であり、文化祭や夏祭り納涼会などの行事を通じて地域住民との交流が行われてきた病院である<sup>4)</sup>。

この三枚橋病院周辺地区調査では、病院の周辺に暮らしている地域住民は日常的な患者との接触体験を積み重ね、患者に対する意識が徐々に変化することが観察された。そして、接触体験が多いほど社会的距離注が小さくなることから、態度変容には接触体験が重要な要因であることが見出されている。

1988年には東京都23区に住む1000人を対象に精神障害者に対する受け入れ意識が調査<sup>5)</sup>されている（以下「東京都調査」とする）。これは1983年に行われた「精神障害者の社会復帰・福祉施策形成基盤に関する調査」<sup>6)</sup>と比較するために行われたものである。

この東京都調査では、「精神障害になると一生精神障害の烙印をおされる」「自分の家に精神障害者がいるとしたら、それを人に知られるのは恥である」といった「精神障害者＝無能力＝危険＝隔離＝恥」とする住民のステレオタイプ化された認識方法が、社会的距離の拡大に寄与していることが明らかになっている。また、「友人・知人に患者がいる」などの「外的な条件による接触体験」よりも「悩みを聞いたり相談に乗る」といった「主体的な接触体験」や回答者自身に「思い悩んだ経験」があるほど精神障害者の受け入れが良好になることが明らかにされている。

また、全家連（全国精神障害者家族会連合会）では1997年に①社会で暮らす人たちの「こころの健康」についての関心の有様を知ること②社会で暮らす人たちの精神障害（者）についての知識や理解のしかたを聞くことを目的として2000人を対象に全国調査を行っている<sup>7)</sup>（以下「全家連調査」とする）。

全家連調査では、一般住民は高齢になるほど精神障害者との社会的距離が減少する傾向にあ

り、精神障害者観に関連する要因として年齢が大きく影響していることが明らかになっている。しかし、「『こころの健康』に関することで、あなたがもっと知りたいと思うことは」という問いに「精神障害についての知識」と答えたのは、どの年齢層においても20%前後であり、焦点がはっきりしないままで「精神障害」に関する啓発の場を設けても効果をあげることは難しく、啓発的な情報だけでは届きにくいということが示唆されている。

この全家連調査において「誰でも精神障害になる可能性がある」と思うかという質問に対し、「そう思う」と回答した人の割合は51.7%、「どちらともいえない」が33.0%、「そう思わない」が14.8%であった。このことから、厚生労働省の精神保健福祉対策本部による「精神保健医療福祉の改革ビジョン」<sup>8)</sup>では、10年後には「そう思う」という人を90%以上にすることを目標とした。

この目標を達成するためには、精神障害に関する知識の普及・啓発を効果的に行っていく必要がある。しかし、これまでの研究は偏見の実態やメカニズムの解明を目指した研究が圧倒的に多く、偏見の抑止や解消を直接取り扱う研究があまり行われてこなかった<sup>9)</sup>。労働組合関係者や民生委員、中学校教師などを対象に、精神障害に関する講座や接触体験などを含んだ介入プログラムも実施されている<sup>10)</sup>が、どのような人を対象にするのが効果的な啓発につながるかという具体的な対象者に関しては見出されていない。

しかし、次のような論文を目にし、具体的な対象者を探すヒントになるのではないかと考えた。それは、塗師（2000）の「動物の飼育経験は共感性の発達にプラスの影響を及ぼす傾向があり、動物の飼育経験がありかつ動物に対する好意度が高いということは共感性の発達にプラスの影響を及ぼす傾向がある」<sup>11)</sup>という調査報告である。これは小学生、中学生、高校生を対象に行ったものだが、大学生の女性においては

飼育経験がありかつ動物好きの群の方が、それ以外の群よりも共感性が有意に高かった<sup>12)</sup>という報告もしている。

これらのことから、動物の飼育経験者は共感性を発達させている可能性があり、他に対する受け入れが良好なのではないかと考えた。

過去に行われた精神障害者に対する意識調査は一般住民を対象としており、動物飼育経験者と非経験者が含まれている可能性が大きい。このため、対象を動物飼育者に限定した調査を行い、受け入れ意識が先行調査の結果と異なる場合は、その要因として動物飼育経験が大きいと考えられることから、動物飼育経験者の精神障害者に対する受け入れ意識を調査することにした。

本調査は、精神障害者に対する受け入れ意識の良好な市民の属性を探り、今後の効果的な知識の普及・啓発、そして、精神障害者が地域で暮らすことを支援するための人的資源の拡充を目的としている。

## II 調査方法

### 1. 対象者

和歌山市内の某動物病院において、飼育動物の受診その他で訪れる人たちを対象にアンケート調査を行った。対象は500人とし、調査票は動物病院のスタッフに個別の手渡しを依頼した。

### 2. 期間と回収方法

配布期間は2004年6月19日から7月18日までの1ヶ月間である。また、受診者はペットを連れており、その場でアンケート用紙に記入しづらい場合が多いため、帰宅後の記入とし、郵送で回収をした。2004年7月末日を投函締め切りとし、331票を回収した。(回収率68.2%)

### 3. 調査内容

性別、年代、動物の嗜好、飼育経験、精神障

害に関する知識、事例をもとに精神障害者に対する受け入れ意識、そして同じ事例の人が動物好きであった場合の受け入れ意識を問う項目である。

動物の好み、飼育動物の種類を問う項目は、「動物愛護に関する世論調査」<sup>13)</sup>をもとに作成した。

精神障害者に対する知識は全家連調査<sup>7)</sup>などで行われた項目の中から、「日本には、約200万人の精神障害者がいる」「33万人が精神病院に入院し、その4割以上が5年以上入院している」「一般の人口の100人に1人くらいがかかる統合失調症は、病気がよくなれば普通の社会生活をおくることができる」「精神障害者が刑事事件をおこす比率は、一般の人が事件をおこす比率より少ない」の4項目について、「知っている」「聞いたような気がする」「知らない」をあげて回答の選択肢とした。

また、受け入れ程度については大島ら<sup>2,3,5)</sup>の、安定はしているが後遺症状のある統合失調症のAさんの事例をあげ「隣に単身で越してくる」場合どの程度受け入れるかを問い、「困っている時はできるだけ手を貸す」「他の人と同じような近所付き合いをする」「あまりかわらないようにする」「他の場所に住むように働きかける」「その他」を選択肢とした。

さらに、Aさんが動物好きだった場合どの程度受け入れるかを問う項目を加え、質問項目数は、回答者に負担のないように全10問とし、A3用紙1枚を用いて行った。(資料2)

## III 結果

### 1. 先行調査との比較

前述の三枚橋病院周辺地区調査、東京都調査、全家連調査は大島らの同じ事例を用いて受け入れ程度を調査しており、これらの調査と対象を動物飼育経験者に限定して行った本調査とを比較した。

精神障害者に対する受け入れに関して、「困っている時はできるだけ手を貸す」と「他の人

と同じような近所付き合いをする」を受容的態度とし、「あまりかかわらないようにする」と「他の場所に住むように働きかける」を拒否的態度とした場合、いずれの調査よりも本調査のほうが受け入れにおいて良好だった。(表1)

動物の飼育経験と精神障害者に対する受け入れに関連が認められたため、本調査において以下のような項目に関して分析を行った。

## 2. 動物の飼育経験

飼育経験のある動物は、犬 90%、猫 48%、魚類 45%、鳥類 37%、昆虫類 25% であった。(世論調査<sup>13)</sup>では、現在の飼育状況をたずねているため、犬 62.4%、猫 29.2%、魚類 11.7%、鳥類 7.7%、昆虫類 2.0% となっている。)

## 3. 性別・年代

性別では、男性が 23%、女性が 77% であり、圧倒的に女性が多い。また、年代は 50 代が最も多く、40 代と 50 代をあわせると、全体の約半数を占めている。(表 2)

## 4. 精神障害に関する知識

すべての項目において「知らない」と答えた人が多かった。また、「33 万人が精神病院に入院し、4 割が 5 年以上入院している」ことを「知っている」と答えたのは約 5% にすぎず、ほとんどの人が入院している精神障害者に関する知識はもっていない。4 項目中、「一般の人口の 100 人に 1 人くらいがかかる統合失調症は、病気がよくなれば普通の社会生活をおくることができる」が最も知られている。(図 1)

## 5. 受け入れ

A さんが隣に引っ越してきた場合、「できるだけ手を貸す」と答えた人は 18.4%、「他の人と同じような近所付き合い」は 67.7%、「あまりかかわらない」は 12.7%、「その他」は 1.2% であり、「他の場所に住むように働きかける」と答えた人はいなかった。(図 2)

また、「引っ越してきた A さんが動物好きだった場合」は、そうでない場合よりも「できるだけ手を貸す」「他の人と同じような近所付き合い」と答えた人が多く、「なるべく関わらないようにする」が減少する傾向にある。

「A さんが動物好きの場合」に「あまりかかわらないようにする」と答えた人の中には、自分のペットが A さんにけがをさせはしないかという気遣いがあるという自由記述もあり、必ずしも拒否的な態度とはいえない。

## 6. 性別と知識・受け入れ

「日本には、約 200 万人の精神障害者がいる」ことを「知っている」「聞いたような気がする」のどちらかに答えた人は、男性が 35%、女性は 25% だった。「33 万人が精神病院に入院し、その 4 割以上が 5 年以上入院している」では男性 21%、女性 12%、「一般の人口の 100 人に 1 人くらいがかかる統合失調症は、病気がよくなれば普通の社会生活をおくることができる」では男性 32%、女性 40%、また、「精神障害者が刑事事件をおこす比率は、一般の人が事件をおこす比率より少ない」では男性 23%、女性 27% だった。4 項目中で「一般の人口の 100 人に 1 人くらいがかかる統合失調症は、病気がよくなれば普通の社会生活をおくることができる」が男女共に一番知られている項目だった。

A さんの受け入れに関しては、「できるだけ手を貸す」「他の人と同じような近所付き合い」と答えた人をあわせると男女とも 8 割強だった。

また、性別においては、知識・受け入れともに男女間の違いは認められなかった。(表 3、表 4)

## 7. 年代と知識

全般的に 60 代が「知っている」「聞いたような気がする」のどちらかに答えた人の割合が 35%~51% と他の年代よりも多かった。逆に 30

代では、どの項目においても知識を持っている人が少なく、「33万人が精神病院に入院し、その4割以上が5年以上入院している」に「知っている」と答えた人はいなかった。(図3-1、3-2、3-3、3-4)

## 8. 年代と受け入れ

「できるだけ手を貸す」と答えた人の割合は、10代以下を除いた他の年代では20%を下回っているのに比べ、50代は約28%と高く、積極的な傾向がみられた(図4)が、どの年代も受け入れに違いは認められなかった。(表5)

このことから、精神障害者に対して「年齢が高くなるにつれて身近な近接関係になることは望まず、特に、女性は年齢が高くなるにつれ近接関係は消極的」<sup>14)</sup>、あるいは「年齢が大きく影響している」<sup>17)</sup>ということは動物飼育経験者に関してはあてはまらなないと考えられる。

## 9. 知識と受け入れ

4項目中「一般の人口の100人に1人くらいがかかる統合失調症は、病気がよくなれば普通の社会生活をおくることができる」では、「できるだけ手を貸す」と答えた人の割合は「知っている」と答えた27%、「聞いたような気がする」の28%であり差はないが、他の3項目では「できるだけ手を貸す」と答えた人の割合は「知らない」「聞いたような気がする」「知っている」の順に高くなっている。逆に、「あまりかかわらない」と答えた人の割合は「知らない」人のほうが高い。(図5-1、5-2、5-3、5-4) この傾向は、動物飼育者に限らず一般的にも言われていることである。

## 10. 飼育の種類数と受け入れ

飼育したことがある動物の種類は、1種類という人が最も多く、全体の約3割近くを占めており、半数以上の人々が1種類、あるいは2種類である。(表6) また、1種類の場合は犬が多い。

受け入れに関しては、「できるだけ手を貸す」「他の人と同じような近所付き合い」と答えた人をあわせるとすべての種類数で8割以上を占め、飼育動物が1種類だから受け入れに拒否的というわけではない。(図6) これは、「飼育経験の有無だけでも共感性との関係が見られ」「かわいくなって飼育したかどうかということが共感性の発達にプラスの影響を及ぼす」とする塗師(2000)<sup>11)</sup>の研究とも一致し、積極的とまではいかななくても受容的ということと、飼育経験のある動物の種類の数とは関連がないといえるだろう。

## 11. 動物の種類・年代と知識・受け入れ

ペットの種別と共感性を調査した塗師(2002)によると「ペットの種別によっても、飼育経験と共感性との関係は異なるのではないかと考えられる」<sup>15)</sup>ため、飼育の種類・年代別の知識と受け入れの関係を調べた。

その結果、特筆すべきは、犬と猫の飼育経験のある人は9割以上が「できるだけ手を貸す」と「他の人と同じような近所付き合い」のどちらかに答えている。(図7) そして、その中でも特に50代の人すべてが「できるだけ手を貸す」と「他の人と同じような近所付き合い」のどちらかに答えており、「あまりかかわらない」と「他の場所に住むように働きかけ」という拒否的な答えをした人は、まったくいなかった。(図8)

さらに、これらの人とそれ以外の飼育経験者の間に知識の違いは認められず、犬と猫の飼育経験のある50代の人々は知識が同程度であっても、それ以外の飼育経験者よりも受け入れが良好であることが明らかになった。(表7、8)

## IV 考察

### 1. 回収率について

本調査の回収率は68.2%であり、郵送による回収としては、比較的高い回収率が確保できた。

これは、馴染みのあるスタッフが、清算時に個別に手渡すことにより、安心感をもって回答することができたためではないだろうか。また、見開きのA3用紙に、質問項目を10問にしたこと、筆記用具を同封したことで、開封した時に気軽に最後まで記入することができ、これらも回収率を高めた要因であると考えられる。

## 2. 代表性について

本調査は、和歌山市内の1つの動物病院への受診者に対し、スタッフが一定期間渡していくという方法であったため、非確率抽出による調査である。このため、偏りのあるサンプルに対する検討結果であるという限定がある。

## 3. 受け入れについて

精神障害者に対する受け入れは、過去に行われた調査よりも、対象を動物飼育経験者に限定した本調査における受け入れのほう全般に良好であった。

先に触れた全家連の質問に対し、「どちらとも言えない」と答えた33%の人たちは、精神疾患は、生活習慣病のように誰でもかかる可能性のある病気だという認識が、不足していると考えられる。また、「そう思う」と答えた人は、精神疾患や精神障害を、他人事とは思わず、「他の人と同じような近所付き合いをする」人であろう。当事者の多くは、地域住民に対して他の人と同じように話しをするなどというきわめて一般的な普通の近所付き合いを望んでおり、特別なことを希望しているわけではない。すなわち、当事者がまず求めているのは、本調査における「他の人と同じような近所付き合いをする」人であり、そして、このような人が動物飼育経験者には多いということが明らかになった。

最近、動物病院によっては、盲導犬育成の募金活動に参加するなど、障害者支援のために積極的な活動を行っているところもあることか

ら、動物病院は、精神障害に関するポスター掲示、パンフレット配布などを通じた啓発活動の場となる可能性があるのではないだろうか。

## 4. 動物の種類・年齢について

犬と猫のどちらも飼育した経験がある人のうち、約1割が50代であったが、これらの人は、それ以外の動物飼育経験者と知識レベルが同じ程度であっても、精神障害者に対する受け入れが、一層積極的かつ受容的であることが明らかになった。したがって、これらの人たちは、動物飼育経験者の中でも、精神障害者を受け入れる可能性の高い存在であり、このような人に対して啓発活動などの働きかけを行うことは、大変有効だと考えられる。

## 5. 動物好きの精神障害者に対する受け入れについて

「Aさんが動物好きの場合」は、そうでない場合よりも「できるだけ手を貸す」と答えた人の割合が増えている。

田之内（1996、1997）によると、被験者に絵を見せた場合、描かれている風景に動物が存在すると、その絵の中の人物がより安全でリラックスしているように認知されるなど、印象が大きく異なる傾向があり<sup>16)</sup>、また、動物の存在によって二者の人間関係の認知を和らげる<sup>17)</sup>としている。このことから、「Aさんが動物好きの場合」、精神障害者に限らず動物好きの相手に対しては、安全でリラックスできると感じられ、知らない相手に対しての身構えが和らぎ、積極的に「できるだけ手を貸す」と答えた人が増えたと考えられる。

いくつかの動物病院が、合同でしつけ教室や飼い主の交流会などのイベントを行っているのを目にすることがあるが、このようなイベントに、動物の好きな当事者が参加することで、精神障害者のスピークアウトや接触体験の機会が生まれる可能性がある。また、このようなイベントを通じて、ボランティア活動を呼びかける

という方法も考えられるのではないだろうか。

## V まとめ

精神障害者に対する偏見を是正するために、精神障害者に対する偏見の少ない人を発掘し、人的資源を拡充することを目的として、動物飼育経験者に焦点をあてて検討を行ってきた。

動物を飼育した経験のある人を探すことは難しいが、現在飼育している人は、何らかの形で表面に表れることが多いため、現在の飼育者を見つけることは容易である。

近年のペットブームで、犬の飼育数は1250万頭、猫の飼育数は1160万頭<sup>18)</sup>といわれており、動物病院以外に、ペットショップや動物愛護団体に協力を求めるというのも一案であろう。このように、今まではまったく目を向けていなかった人に対するアプローチや場の提供が、精神障害者にとっての人的資源を拡充するための方法となる可能性がうまれてくる。

どのような知識や介入プログラム<sup>10)</sup>が、精神障害者に対する偏見の除去に効果的かという先に触れたような研究は、実践的であり、大変重要である。しかし、これまでは、年齢、性別のほかには、学歴、収入、あるいは精神障害(者)に関する知識やイメージなどと、精神障害者に対する受け入れ態度の関係を調べたものが多く、これらは、他からは見えにくいものであり、他からは見えにくい属性に働きかけることは難しい。

しかし、属性が見えるものであれば、この属性にあてはまる人たちに、具体的な働きかけを行うことが可能になる。さらに、これらの人たちに、介入プログラムなどによる体験的知識や接触体験などの機会を提供することで、精神障害者に対する偏見の軽減や除去を一層、効果的にすすめることができるのではないだろうか。

このように、今後は、精神障害者に関する知識や介入プログラムの研究と同時に、働きかけを行う具体的な対象者の属性に関する研究も必

要だと思われる。このため、本調査は検討結果に限定はあるものの、精神障害者にとっての人的資源を拡充するための、ひとつの提案としての意義があると考えている。

どのような動物飼育者にどのようなアプローチを行うのが効果的か、また、「あまり関わらないようにする」と答えた人たちの意識を変えるためには、どうすればよいかということは、今後の課題である。

## 謝辞

本調査にあたり、ご理解とご協力を頂いたロン動物病院の姚龍幸院長、姚慶子獣医師、スタッフの方々、ならびに和歌山市立本町小学校の竹光眞佐人先生、そして、アンケートにご協力頂いた皆様に心から感謝申し上げます。

注)「社会的距離」とは、偏見を表現するために、アメリカの社会学者 Bogardus が操作化した概念であり<sup>19)</sup>、ここでは大島らがいう「他集団に対する、社会関係の上で感じる同情的な理解(親近性)の程度」<sup>2,3,7)</sup>を意味している。

## 文 献

- 1) G. W. オルボート 原谷達夫・野村昭共訳「偏見の心理」培風館 1968
- 2) 大島 巖、山崎喜比古、中村佐織、小沢 温「日常的な接触体験を有する一般住民の精神障害者観」社会精神医学 12-3 286~297 1989
- 3) 大島 巖、中村佐織、山崎喜比古、小沢 温、三田優子、園田恭一「障害者を包み込んだ保健と福祉のコミュニティづくりに関する調査研究—福祉施設や精神病院の社会化・開放化と周辺住民の受け入れ姿勢—」『保健と福祉のコミュニティづくりに関する研究』昭和61年度文部省科学研究報告書(園田恭一代表) 109~237 1988
- 4) 石川信義「開かれている病棟」星和書店 1978
- 5) 大島 巖「精神障害者に対する一般住民の態度と社会的距離尺度—尺度の妥当性を中心に—」精神保健研究 4 (通巻 38) 25~37 1992
- 6) 岡上和雄、石原邦男「精神障害(者)に対する態度と施策への方向づけ—精神障害者の社会復帰・福祉施策形成基盤に関する調査より—」社会保障研究 21-4 373~385 1986

- 7) ぜんかれんモノグラフ No. 22「精神障害者観の現状 '97」全家連 1998
- 8) 厚生労働省精神保健福祉対策本部「精神保健福祉の改革ビジョン」2004
- 9) 中村 真「精神障害者に対する否定的態度に関する研究の動向（I）-日本国内における実態調査-」川村学園女子大学研究紀要 12-1 199～212 2001
- 10) 西尾雅明 分担研究報告書「統合失調症に対する偏見除去の方法に関する研究」佐藤光源、原田憲一、西尾雅明、千葉 潜『精神障害者の偏見除去等に関する研究』厚生労働科学研究費補助金 障害保健福祉総合研究事業 2003
- 11) 塗師 斌「動物飼育経験と動物に対する好感度が共感性に及ぼす影響」横浜国立大学教育人間科学部紀要Ⅰ、教育科学 3 1～10 2000
- 12) 塗師 斌「大学生の動物に対する接触可能度と飼育経験-教員養成系大学生について-」日本教育心理学会総会発表論文集 41 238 1999
- 13) 内閣総理大臣官房広報室「動物愛護に関する世論調査」2003年7月実施
- 14) 焼山和憲、伊藤直子、石井美紀代他「精神障害者に対する地域住民の社会的距離に関する研究-地域ケアを阻む要因分析-」西南女学院大学紀要 77～18 2003
- 15) 塗師 斌「ペット飼育経験が共感性の発達に及ぼす影響-ペットの種別に見た場合-」横浜国立大学教育人間科学部紀要Ⅰ、教育科学 4 27～34 2002
- 16) 田之内厚三「動物のいる風景-動物の存在が対人認知に及ぼす影響-」日本応用心理学会第63回大会発表論文集 58 1996
- 17) 田之内厚三「動物のいる風景（2）-動物の存在が対人関係の認知に及ぼす影響-」日本応用心理学会第64回大会発表論文集 57 1997
- 18) ペットフード工業会「第11回犬猫飼育率全国調査」2003年10月実施
- 19) ギドー・M・クロセティ 加藤正明監訳「偏見・スティグマ・精神病」星和書店 1978

〈資料1〉

表1 精神障害者が隣に引っ越してきた場合の受け入れ

	全家連 ①		東京都 ②		三枚橋周辺 ③		本調査 ④		全体		検定 ①×④ ②×④ ③×④ 「手を貸す・同じようなつきあい」 ×「関わらない・他の場所へ」		
	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%			
できるだけ手を貸す	387	28.9	79	18.5	105	26.4	61	18.4	632	25.3	P=0.02	P=0.00	P=0.01
同じような付き合い	672	50.1	227	53.2	200	50.4	224	67.7	1323	53.0			
あまり関わらない	231	17.2	103	24.1	76	19.1	42	12.7	452	18.1			
他の場所へ働きかけ	5	0.4	2	0.5	2	0.5	0	0.0	9	0.4			
その他	25	1.9	12	2.8	8	2.0	4	1.2	49	2.0			
無回答	21	1.6	4	0.9	6	1.5	0	0.0	31	1.2			
全体	1341	100.0	427	100.0	397	100.0	331	100.0	2496	100.0			

注：χ<sup>2</sup>test [その他、無回答を除く]

表2 性別と年代

	10代以下		20代		30代		40代		50代		60代		70代以上		全体	
	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
男性	2	2.7	9	12.0	14	18.7	11	14.7	22	29.3	15	20.0	2	2.7	75	100.0
女性	5	2.0	39	15.3	49	19.2	66	25.9	64	25.1	26	10.2	6	2.4	255	100.0
無回答	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	100.0	0	0.0	0	0.0	1	100.0
全体	7	2.1	48	14.5	63	19.0	77	23.3	87	26.3	41	12.4	8	2.4	331	100.0



表3 性別と知識

	男性		女性		全体		検定
	人	%	人	%	人	%	
約200万人の精神障害者							
知っている	7	9.3	21	8.2	28	8.5	P=0.23
聞いた気がする	19	25.3	43	16.9	62	18.8	
知らない	49	65.3	190	74.5	239	72.4	
無回答	0	0.0	1	0.4	1	0.3	
全体	75	100.0	255	100.0	330	100.0	
33万人が入院し、その4割が5年以上							
知っている	6	8.0	12	4.7	18	5.5	P=0.17
聞いた気がする	10	13.3	20	7.8	30	9.1	
知らない	59	78.7	223	87.5	282	85.5	
無回答	0	0.0	0	0.0	0	0.0	
全体	75	100.0	255	100.0	330	100.0	
統合失調症は病状改善で社会生活を送れる							
知っている	12	16.0	51	20.0	63	19.1	P=0.46
聞いた気がする	12	16.0	51	20.0	63	19.1	
知らない	51	68.0	153	60.0	204	61.8	
無回答	0	0.0	0	0.0	0	0.0	
全体	75	100.0	255	100.0	330	100.0	
刑事事件の比率は一般人より少ない							
知っている	11	14.7	34	13.3	45	13.6	P=0.38
聞いた気がする	6	8.0	36	14.1	42	12.7	
知らない	58	77.3	185	72.5	243	73.6	
無回答	0	0.0	0	0.0	0	0.0	
全体	75	100.0	255	100.0	330	100.0	

注：χ<sup>2</sup>test [無回答を除く]

表4 性別と受け入れ

	男性		女性		全体 (無回答1)		検定
	人	%	人	%	人	%	
Aさんが引越してきた場合							
手を貸す	11	14.7	50	19.6	61	18.5	P=0.55
同じような付き合い	55	73.3	169	66.3	224	67.9	
あまり関わらない	9	12.0	32	12.5	41	12.4	
他の場所へ働きかけ	0	0.0	0	0.0	0	0.0	
その他	0	0.0	4	1.6	4	1.2	
全体	75	100.0	255	100.0	330	100.0	

注：χ<sup>2</sup>test [他の場所、その他、無回答を除く]

表5 年代と受け入れ

	年代							全体	検定			
	10代以下 ①	20代 ②	30代 ③	40代 ④	50代 ⑤	60代 ⑥	70代以上 ⑦		①×他 ⑤×他	②×他 ⑥×他	③×他 ⑦×他	④×他
できるだけ手を貸す	4	3	8	12	25	8	1	61	P=0.38	P=0.93	P=0.28	P=0.49
同じような付き合い	3	36	48	54	51	28	4	224	P=0.43	P=0.56	P=0.99	
あまり関わらない	0	9	6	9	10	5	3	42				
他の場所へ働きかけ	0	0	0	0	0	0	0	0				
その他	0	0	1	2	1	0	0	4				
全体	7	48	63	77	87	41	8	331				

注：Fisher's test [その他は除く]

表6 飼育の種類数

	人	%		人	%
9種類	2	0.6	4種類	40	12.1
8種類	2	0.6	3種類	56	16.9
7種類	3	0.9	2種類	71	21.5
6種類	16	4.8	1種類	98	29.6
5種類	43	13.0	全体	331	100.0

表7 50代の犬猫（他の動物を含む）飼育経験者とそれ以外の飼育経験者における知識

	50代の 犬猫飼育経験者		その他の 飼育経験者		全 体		検 定 「知っている・聞いた気」 ×「知らない」
	人	%	人	%	人	%	
約200万人の精神障害者							
知っている	2	5.9	26	8.8	28	8.5	P=0.53
聞いた気がする	7	20.6	56	18.9	63	19.0	
知らない	25	73.5	214	72.1	239	72.2	
無回答	0	0.0	1	0.3	1	0.3	
全体	34	100.0	297	100.0	331	100.0	
33万人が入院し、その4割が5年以上							
知っている	2	5.9	16	5.4	18	5.4	P=0.41
聞いた気がする	2	5.9	29	9.8	31	9.4	
知らない	30	88.2	252	84.8	282	85.2	
無回答	0	0.0	0	0.0	0	0.0	
全体	34	100.0	297	100.0	331	100.0	
統合失調症は病状改善で社会生活を送れる							
知っている	7	20.6	56	18.9	63	19.0	P=0.98
聞いた気がする	11	32.4	53	17.8	64	19.3	
知らない	16	47.1	188	63.3	204	61.6	
無回答	0	0.0	0	0.0	0	0.0	
全体	34	100.0	297	100.0	331	100.0	
刑事事件の比率は一般人より少ない							
知っている	5	14.7	40	13.5	45	13.6	P=0.75
聞いた気がする	5	14.7	37	12.5	42	12.7	
知らない	24	70.6	220	74.1	244	73.7	
無回答	0	0.0	0	0.0	0	0.0	
全体	34	100.0	297	100.0	331	100.0	

注：Fisher's test [無回答は除く]

表8 50代の犬猫（他の動物を含む）飼育経験者とそれ以外の飼育経験者における受け入れ

	50代の 犬猫飼育経験者		それ以外の 飼育経験者		全 体		検 定 「手貸す・同じ付き合い」× 「関わらない・他の場所」
	人	%	人	%	人	%	
Aさんが引越してきた場合							
手を貸す	13	38.2	48	16.2	61	18.4	P=0.01
同じような付き合い	21	61.8	203	68.4	224	67.7	
あまり関わらない	0	0.0	42	14.1	42	12.7	
他の場所へ働きかけ	0	0.0	0	0.0	0	0.0	
その他	0	0.0	4	1.3	4	1.2	
全体	34	100.0	297	100.0	331	100.0	

注：Fisher's test [その他を除く]

御前由美子：精神障害者にとっての人的資源を拡充するための研究

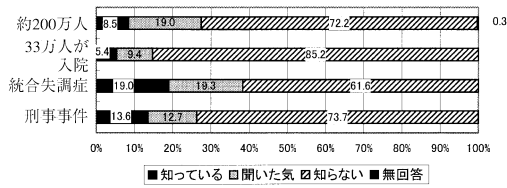


図 1 知識

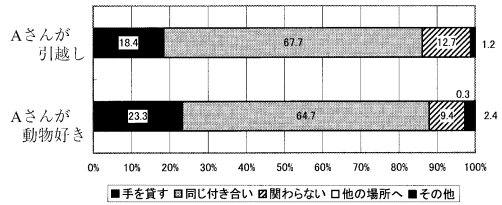


図 2 受け入れ

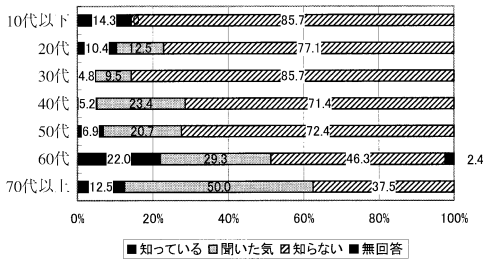


図 3-1 年代と知識 (200万人の精神障害者)

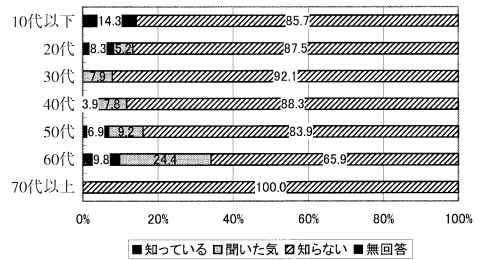


図 3-2 年代と知識 (33万人が入院)

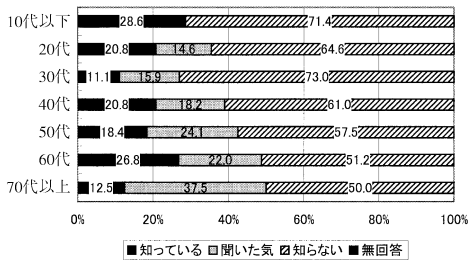


図 3-3 年代と知識 (統合失調症)

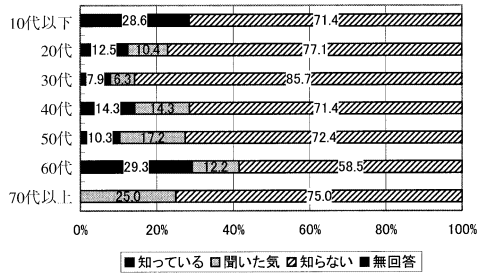


図 3-4 年代と知識 (刑事事件の比率)

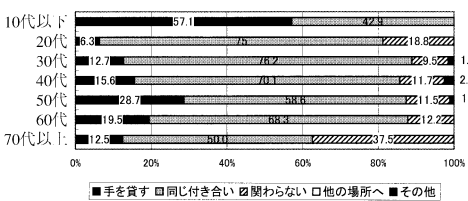


図 4 年代と受け入れ

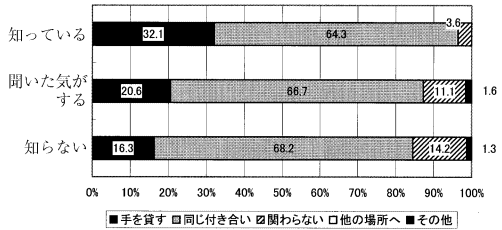


図 5-1 知識と受け入れ (200万人の精神障害者)

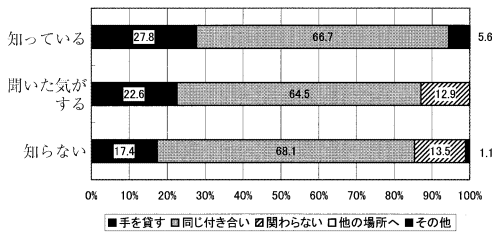


図 5-2 知識と受け入れ (33万人が入院)

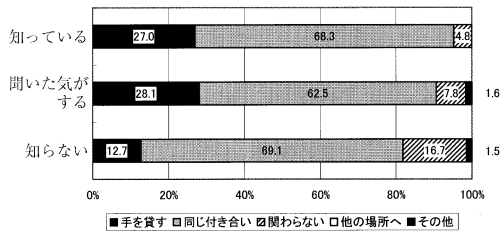


図 5-3 知識と受け入れ (統合失調症)

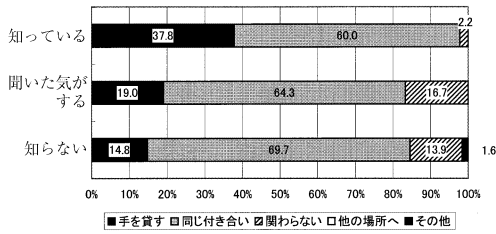


図 5-4 知識と受け入れ (刑事事件の比率)

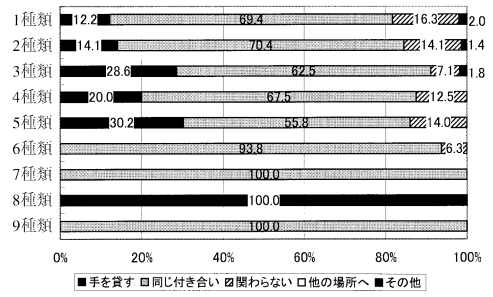


図 6 飼育数と受け入れ

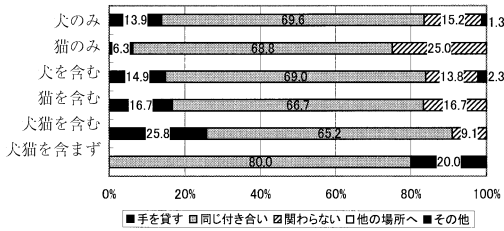


図 7 飼育の種類と受け入れ

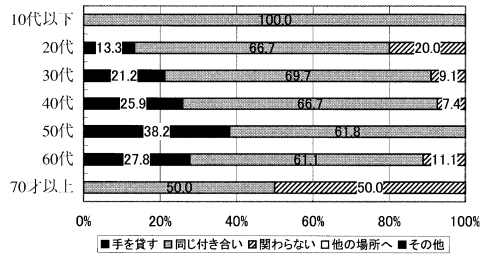


図 8 犬猫飼育経験者の年代と受け入れ

〈資料 2〉

——動物の飼育と精神障害者に対する意識調査——

あてはまるものに○印をつけて下さい。

- あなたの性別はどちらですか？  
男      女
- あなたの年齢はどれにあたりますか？  
19才以下    20才代    30才代    40才代  
50才代    60才代    70才以上
- あなたはどんな動物が好きですか？次の中からあてはまるものすべてに印をつけて下さい。  
 (動物が好きでない方は記入しなくて結構です。)  
犬    ねこ    魚類    鳥類    うさぎ    は虫類  
ねずみ類    昆虫類    さる類    猛獣類    その他 (      )
- あなたはどんな動物を飼っていますか？又は、飼ったことがありますか？  
 次のの中からあてはまるものすべてに印をつけてください。(動物を飼ったことがない方は記入しなくて結構です。)  
犬    ねこ    魚類    鳥類    うさぎ    は虫類  
ねずみ類    昆虫類    さる類    猛獣類    その他 (      )

厚生労働省の病院報告や警察庁の統計では、以下のことが報告されていますが、5～8のことをすでにご存知でしたか？

5. 「日本には、約 200 万人の精神障害者がいる」  
知っている 聞いたような気がする 知らない
6. 「33 万人が精神病院に入院し、その 4 割が 5 年以上入院している」  
知っている 聞いたような気がする 知らない
7. 「一般の人口の 100 人に 1 人くらいがかかる統合失調症は、病気がよくなれば普通の社会生活をおくることができる」  
知っている 聞いたような気がする 知らない
8. 「精神障害者が刑事事件をおこす比率は、一般の人が事件をおこす比率より少ない」  
知っている 聞いたような気がする 知らない

次の事例を読んで、お答えください。

統合失調症で精神病院に入院したことがある A さん（35 才、男性、独身）は、病気がよくなったので、主治医の勧めでアパートを借りて生活しようと考え、何軒かの大家さんに当たりましたが、すべて断られてしまいました。

たしかに A さんには、気力が続かず、長時間の勤めには出られない後遺症が残っていますし、多少ハキハキしないところもあります。しかし、短時間の軽作業をするために同じ病気の患者さん達が通う作業所には毎日行くことができます。

それに人柄はまじめですし、買い物や炊事なども一般の人と同じようにできるのです。アパート入居を断られて A さんは精神病院に入院していたということで入居できないのは本当にくやしいと思ったそうです。

9. あなたのとなりに A さんが引っ越してきた場合、どのような近所付き合いをしますか？  
(あなたの考えにもっとも近いものを 1 つ選んでください)
- 困っている時はできるだけ手を貸す  
他の人と同じような近所付き合いをする  
あまりかかわらないようにする  
他の場所に住むように働きかける  
その他（具体的に )
10. 引っ越してきた A さんが動物好きだった場合、どのような近所付き合いをしますか？  
(あなたの考えにもっとも近いものを 1 つ選んでください)
- 困っている時はできるだけ手を貸す  
他の人と同じような近所付き合いをする  
あまりかかわらないようにする  
他の場所に住むように働きかける  
その他（具体的に )

ご協力ありがとうございました

〈資料3〉

基礎集計 (年齢別)

n=331

	19才以下		20代		30代		40代		50代		60代		70才以上		全体	
	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
<b>問1 性別</b>																
1) 男	2	28.6	9	18.8	14	22.2	11	14.3	22	25.3	15	36.6	2	25.0	75	22.7
2) 女	5	71.4	39	81.3	49	77.8	66	85.7	64	73.6	26	63.4	6	75.0	255	77.0
無回答	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	1.1	0	0.0	0	0.0	1	0.3
全体	7	100.0	48	100.0	63	100.0	77	100.0	87	100.0	41	100.0	8	100.0	331	100.0
<b>問3 どんな動物が好きですか [複数回答]</b>																
1) 犬	7	100.0	42	87.5	59	93.7	70	90.9	82	94.3	35	85.4	8	100.0	303	91.5
2) ねこ	6	85.7	34	70.8	34	54.0	37	48.1	45	51.7	19	46.3	3	37.5	178	53.8
3) 魚類	3	42.9	12	25.0	8	12.7	15	19.5	26	29.9	10	24.4	0	0.0	74	22.4
4) 鳥類	3	42.9	7	14.6	13	20.6	15	19.5	22	25.3	7	17.1	1	12.5	68	20.5
5) うさぎ	4	57.1	12	25.0	20	31.7	20	26.0	24	27.6	8	19.5	1	12.5	89	26.9
6) は虫類	0	0.0	3	6.3	2	3.2	4	5.2	2	2.3	0	0.0	0	0.0	11	3.3
7) ねずみ類	3	42.9	7	14.6	8	12.7	9	11.7	3	3.4	0	0.0	0	0.0	30	9.1
8) 昆虫類	2	28.6	1	2.1	2	3.2	9	11.7	8	9.2	1	2.4	1	12.5	24	7.3
9) さる類	2	28.6	8	16.7	10	15.9	9	11.7	9	10.3	2	4.9	0	0.0	40	12.1
10) 猛獣類	3	42.9	6	12.5	2	3.2	5	6.5	4	4.6	0	0.0	0	0.0	20	6.0
11) その他	1	14.3	1	2.1	0	0.0	2	2.6	6	6.9	0	0.0	0	0.0	10	3.0
無回答	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
全体	7	100.0	48	100.0	63	100.0	77	100.0	87	100.0	41	100.0	8	100.0	331	100.0
<b>問4 どんな動物を飼っていますか 又は飼ったことがありますか [複数回答]</b>																
1) 犬	7	100.0	39	81.3	61	96.8	69	89.6	79	90.8	36	87.8	7	87.5	298	90.0
2) ねこ	1	14.3	23	47.9	34	54.0	33	42.9	42	48.3	22	53.7	5	62.5	160	48.3
3) 魚類	3	42.9	20	41.7	30	47.6	44	57.1	37	42.5	14	34.1	2	25.0	150	45.3
4) 鳥類	2	28.6	18	37.5	27	42.9	25	32.5	34	39.1	15	36.6	2	25.0	123	37.2
5) うさぎ	0	0.0	3	6.3	7	11.1	9	11.7	15	17.2	7	17.1	0	0.0	41	12.4
6) は虫類	0	0.0	3	6.3	3	4.8	5	6.5	4	4.6	1	2.4	0	0.0	16	4.8
7) ねずみ類	2	28.6	8	16.7	15	23.8	14	18.2	10	11.5	1	2.4	1	12.5	51	15.4
8) 昆虫類	1	14.3	8	16.7	20	31.7	22	28.6	24	27.6	5	12.2	2	25.0	82	24.8
9) さる類	0	0.0	1	2.1	1	1.6	1	1.3	0	0.0	0	0.0	0	0.0	3	0.9
10) 猛獣類	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
11) その他	0	0.0	2	4.2	3	4.8	1	1.3	4	4.6	0	0.0	0	0.0	10	3.0
無回答	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
全体	7	100.0	48	100.0	63	100.0	77	100.0	87	100.0	41	100.0	8	100.0	331	100.0
<b>問5 約200万人の精神障害者</b>																
1) 知っている	1	14.3	5	10.4	3	4.8	4	5.2	6	6.9	9	22.0	0	0.0	28	8.5
2) 聞いたような気がする	0	0.0	6	12.5	6	9.5	18	23.4	18	20.7	12	29.3	3	37.5	63	19.0
3) 知らない	6	85.7	37	77.1	54	85.7	55	71.4	63	72.4	19	46.3	5	62.5	239	72.2
無回答	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	2.4	0	0.0	1	0.3
全体	7	100.0	48	100.0	63	100.0	77	100.0	87	100.0	41	100.0	8	100.0	331	100.0
<b>問6 33万人が精神病院に入院 その4割が5年以上入院</b>																
1) 知っている	1	14.3	4	8.3	0	0.0	3	3.9	6	6.9	4	9.8	0	0.0	18	5.4
2) 聞いたような気がする	0	0.0	2	4.2	5	7.9	6	7.8	8	9.2	10	24.4	0	0.0	31	9.4
3) 知らない	6	85.7	42	87.5	58	92.1	68	88.3	73	83.9	27	65.9	8	100.0	282	85.2
無回答	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
全体	7	100.0	48	100.0	63	100.0	77	100.0	87	100.0	41	100.0	8	100.0	331	100.0
<b>問7 統合失調症はよくなれば普通の社会生活を送れる</b>																
1) 知っている	2	28.6	10	20.8	7	11.1	16	20.8	16	18.4	11	26.8	1	12.5	63	19.0
2) 聞いたような気がする	0	0.0	7	14.6	10	15.9	14	18.2	21	24.1	9	22.0	3	37.5	64	19.3
3) 知らない	5	71.4	31	64.6	46	73.0	47	61.0	50	57.5	21	51.2	4	50.0	204	61.6
無回答	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
全体	7	100.0	48	100.0	63	100.0	77	100.0	87	100.0	41	100.0	8	100.0	331	100.0
<b>問8 精神障害者の刑事事件 比率は一般の人より少ない</b>																
1) 知っている	2	28.6	6	12.5	5	7.9	11	14.3	9	10.3	12	29.3	0	0.0	45	13.6
2) 聞いたような気がする	0	0.0	5	10.4	4	6.3	11	14.3	15	17.2	5	12.2	2	25.0	42	12.7
3) 知らない	5	71.4	37	77.1	54	85.7	55	71.4	63	72.4	24	58.5	6	75.0	244	73.7
無回答	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
全体	7	100.0	48	100.0	63	100.0	77	100.0	87	100.0	41	100.0	8	100.0	331	100.0
<b>問9 となりに Aさんが可越し</b>																
1) 困っている時は手を貸す	4	57.1	3	6.3	8	12.7	12	15.6	25	28.7	8	19.5	1	12.5	61	18.4
2) 他の人と同じような付き合い	3	42.9	36	75.0	48	76.2	54	70.1	51	58.6	28	68.3	4	50.0	224	67.7
3) あまり関わらない	0	0.0	9	18.8	6	9.5	9	11.7	10	11.5	5	12.2	3	37.5	42	12.7
4) 他の場所へ働きかけ	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
5) その他	0	0.0	0	0.0	1	1.6	2	2.6	1	1.1	0	0.0	0	0.0	4	1.2
無回答	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
全体	7	100.0	48	100.0	63	100.0	77	100.0	87	100.0	41	100.0	8	100.0	331	100.0
<b>問10 Aさんが動物好き</b>																
1) 困っている時は手を貸す	5	71.4	6	12.5	14	22.2	13	16.9	26	29.9	12	29.3	1	12.5	77	23.3
2) 他の人と同じような付き合い	2	28.6	35	72.9	44	69.8	51	66.2	53	60.9	25	61.0	4	50.0	214	64.7
3) あまり関わらない	0	0.0	6	12.5	4	6.3	9	11.7	7	8.0	2	4.9	3	37.5	31	9.4
4) 他の場所へ働きかけ	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	2.4	0	0.0	1	0.3
5) その他	0	0.0	1	2.1	1	1.6	4	5.2	1	1.1	1	2.4	0	0.0	8	2.4
無回答	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
全体	7	100.0	48	100.0	63	100.0	77	100.0	87	100.0	41	100.0	8	100.0	331	100.0